

# 結果の概要

## 刑務所・拘置所等

### 1 被收容者

#### (1) 收容状況

最近 10 年間の全国の刑務所及び拘置所の 1 日平均收容人員の推移は、第 1 表のとおりである。平成 5 年に増加に転じて以降、年々増加していたが、同 20 年から連続して減少しており、同 23 年は前年に比べ 2,854 人 (3.8%) 減少した 71,378 人 (男 66,046 人, 女 5,332 人) となっている。

第 1 表 1 日平均收容人員の推移

区 分	平成 14 年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
総 数	67,354	71,889	75,289	77,932	80,335	80,684	78,533	76,019	74,232	71,378
男	63,614	67,768	70,887	73,238	75,331	75,490	73,271	70,794	68,948	66,046
女	3,740	4,121	4,402	4,694	5,003	5,194	5,262	5,224	5,284	5,332
対前年比	6.2	6.7	4.7	3.5	3.1	0.4	-2.7	-3.2	-2.4	-3.8

(注) 刑務所・拘置所等 (以下第 31 表まで同じ。) の 2 表 (法務省ホームページにおける統計表番号「11-00-02」, 以下 同様。) 参照

平成 23 年における 1 日平均收容人員の内訳は、第 2 表のとおりである。被收容者の種別で見ると、受刑者が 62,432 人 (87.5%), 次いで、被告人が 7,596 人 (10.6%), 労役場留置者が 1,140 人 (1.6%) の順となっている。

第 2 表 1 日平均收容人員の内訳

区 分	総数	受刑者	死刑確定者	被告人	被疑者	労役場留置者	その他
人 員	71,378	62,432	117	7,596	87	1,140	5
(構成比)	(100.0)	(87.5)	(0.2)	(10.6)	(0.1)	(1.6)	(0.0)
対前年比	-3.8	-3.9	8.3	-2.3	-15.5	-8.3	-

(注) 1 表 (「11-00-01」) 及び 2 表 (「11-00-02」) 参照

#### (2) 年末收容人員

最近 10 年間の年末における收容人員の推移は、第 3 表のとおりである。收容率 (年末における收容定員 (病舎の定員を除く。) に対する年末收容人員の比率) は、平成 13 年から同 18 年まで 6 年連続して 100% を超過していたが、同 19 年から 5 年連続して收容定員を下回る事となった。

第 3 表 年末收容人員の推移

区 分	平成 14 年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
年末收容人員	69,502	73,734	76,413	79,055	81,255	79,809	76,881	75,250	72,975	69,876
收容定員	65,264	69,694	72,182	76,043	79,375	85,214	87,754	90,354	90,182	90,547
収 容 率	106.5	105.8	105.9	104.0	102.4	93.7	87.6	83.3	80.9	77.2

(注) 3 表 (「11-00-03」) 参照

#### (3) 入・出所人員

最近 10 年間の入・出所人員の推移は、第 4 表のとおりである。刑務所及び拘置所の入所人員は、平成 16 年以降減少し、同 23 年は前年に比べ 2,815 人 (5.4%) 減少した 49,109 人 (男 44,802 人, 女 4,307 人) となっている。出所人員も、平成 17 年以降減少し、同 23 年は前年に比べ 1,991 人 (3.7%) 減少した 52,208 人 (男 47,903 人, 女 4,305 人) となっている。

第4表 入・出所人員の推移

区 分	平成14年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
入所人員 (指数)	63,485 (100)	67,979 (107)	67,612 (107)	65,857 (104)	62,804 (99)	57,491 (91)	54,923 (87)	53,437 (84)	51,924 (82)	49,109 (77)
出所人員 (指数)	59,489 (100)	63,748 (107)	64,933 (109)	63,215 (106)	60,604 (102)	58,937 (99)	57,851 (97)	55,068 (93)	54,199 (91)	52,208 (88)

(注) 14表(「11-00-14」)参照

(4) 外国人被收容者

最近10年間の年末収容人員のうち、外国人被收容者人員の推移は、第5表のとおりである。平成23年の年末における外国人被收容者人員は、前年に比べ371人(7.7%)減少した4,432人となり、外国人受刑者人員は、300人(7.3%)減少した3,813人となっている。

第5表 年末収容人員のうち外国人被收容者人員の推移

区 分	平成14年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
年末収容人員(A)	69,502	73,734	76,413	79,055	81,255	79,809	76,881	75,250	72,975	69,876
うち、外国人被收容者人員(B)	5,092	5,668	6,020	6,183	6,179	5,919	5,353	5,027	4,803	4,433
うち、外国人受刑者人員	3,892	4,326	4,832	5,177	5,216	5,139	4,681	4,371	4,113	3,813
年末収容人員に占める比率 [(B)/(A)]	7.3	7.7	7.9	7.8	7.6	7.4	7.0	6.7	6.6	6.3

(注) 3表(「11-00-03」)及び8表(「11-00-08」)参照

平成23年の年末在所外国人被收容者の内訳は、第6表のとおりである。

このうち、来日外国人は3,080人であり、外国人被收容者年末収容人員に占める割合は69.5%となっている。

第6表 年末在所外国人被收容者の内訳

区 分	総数	受刑者	未決拘禁者	その他
外国人被收容者 年末収容人員	4,433	3,813	523	97
うち、来日外国人	3,081	2,632	367	82

(注) 8表(「11-00-08」)及び9表(「11-00-09」)参照

平成23年の年末在所来日外国人被收容者の国籍は、第7表のとおりである。国籍別の人員総数は、中国が1,116人(36.2%)と最も多く、次いで、イランが371人(12.0%)、ブラジルが338人(11.0%)、韓国・朝鮮が177人(5.7%)の順となっている。

第7表 年末在所来日外国人被收容者の国籍

区 分	総数	中国	イラン	ブラジル	韓国・朝鮮	ベトナム	フィリピン	ペルー	ナイジェリア	タイ	コロンビア	その他
人 員												
総 数	3,081	1,116	371	338	177	155	119	76	66	56	49	558
男	2,713	989	370	325	144	129	72	70	66	31	40	477
女	368	127	1	13	33	26	47	6	0	25	9	81
構成比												
総 数	100.0	36.2	12.0	11.0	5.7	5.0	3.9	2.5	2.1	1.8	1.6	18.1
男	100.0	36.5	13.6	12.0	5.3	4.8	2.7	2.6	2.4	1.1	1.5	17.6
女	100.0	34.6	0.3	3.5	9.0	7.1	12.8	1.6	—	6.8	2.5	21.8

(注) 9表(「11-00-09」)参照

## 2 新受刑者

### (1) 新受刑者の収容状況

最近10年間の新受刑者人員の推移は、第8表のとおりである。新受刑者人員の総数は平成4年から同18年まで15年連続して増加していたが、平成19年から5年連続して減少しており、同23年は前年と比べ1,580人(5.8%)減少した25,499人(男23,273人,女2,226人)となっている。

第8表 新受刑者人員の推移

区分	平成14年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
人員										
総数	30,277	31,355	32,090	32,789	33,032	30,450	28,963	28,293	27,079	25,499
男	28,572	29,488	30,089	30,607	30,699	28,272	26,768	26,123	24,873	23,273
女	1,705	1,867	2,001	2,182	2,333	2,178	2,195	2,170	2,206	2,226
指数										
総数	100	104	106	108	109	101	96	93	89	84
男	100	103	105	107	107	99	94	91	87	81
女	100	110	117	128	137	128	129	127	129	131

(注) 18表(「11-00-18」)参照

### (2) 新受刑者の年齢

平成23年における新受刑者の年齢別人員は、第9表のとおりである。これを総数の構成比で見ると、35～39歳が14.8%(3,762人)と最も高く、次いで40～44歳が14.1%(3,597人)、30～34歳が12.0%(3,070人)の順となっている。

第9表 新受刑者の年齢別人員

区分	総数	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
人員													
総数	25,499	49	1,410	2,531	3,070	3,762	3,597	2,906	2,180	1,925	2,041	1,063	965
男	23,273	48	1,311	2,347	2,804	3,385	3,268	2,669	2,022	1,780	1,875	953	811
女	2,226	1	99	184	266	377	329	237	158	145	166	110	154
構成比													
総数	100.0	0.2	5.5	9.9	12.0	14.8	14.1	11.4	8.5	7.5	8.0	4.2	3.8
男	100.0	0.2	5.6	10.1	12.0	14.5	14.0	11.5	8.7	7.6	8.1	4.1	3.5
女	100.0	0.0	4.4	8.3	11.9	16.9	14.8	10.6	7.1	6.5	7.5	4.9	6.9
前年比													
総数	-5.8	69.0	-15.0	-15.2	-8.8	-4.7	-2.2	-1.6	-2.9	-9.3	2.6	-12.5	8.5
男	-6.4	71.4	-15.8	-14.9	-9.4	-5.2	-3.7	-1.6	-1.9	-11.0	1.8	-13.0	6.3
女	0.9	0.0	-2.9	-18.2	-2.6	0.0	15.0	-1.3	-14.1	16.9	12.2	-8.3	22.2

(注) 22表(「11-00-22」)参照

また、最近10年間の新受刑者のうち60歳以上人員の推移は、第10表のとおりである。新受刑者のうち60歳以上人員の総数は、平成22年まで連続して増加しているが、同23年は減少しており、前年と比べ24人(0.6%)減少した4,069人(男3,639人,女430人)となっている。

第10表 新受刑者のうち60歳以上人員の推移

区分	平成14年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
人員										
総数	2,604	2,929	3,129	3,460	3,717	3,727	4,017	4,056	4,093	4,069
男	2,437	2,747	2,920	3,229	3,417	3,437	3,670	3,673	3,699	3,639
女	167	182	209	231	300	290	347	383	394	430
構成比										
総数	8.6	9.3	9.8	10.6	11.3	12.2	13.9	14.3	15.1	16.0
男	8.5	9.3	9.7	10.5	11.1	12.2	13.7	14.1	14.9	15.6
女	9.8	9.7	10.4	10.6	12.9	13.3	15.8	17.6	17.9	19.3

(注) 22表(「11-00-22」)参照

### (3) 新受刑者の罪名

平成23年における新受刑者の罪名別人員は、第11表のとおりである。これを、罪名別の総数の構成比で見ると、窃盗が34.0%(8,668人)と最も高く、次いで、覚せい剤取締法違反が25.8%(6,570人)、詐欺が7.3%(1,865人)、傷害が5.6%(1,429人)、道路交通法違反が5.0%(1,270人)、強盗が3.1%(797人)の順となっている。

第11表 新受刑者の罪名別人員

区分	総数	構成比	男	構成比	女	構成比
総数	25,499	100.0	23,273	100.0	2,226	100.0
刑法犯	16,514	64.8	15,268	65.6	1,246	56.0
放火	164	0.6	135	0.6	29	1.3
文書偽造等	169	0.7	153	0.7	16	0.7
強制わいせつ・強姦	666	2.6	666	2.9	-	-
賭博・富くじ	20	0.1	20	0.1	-	-
殺人	303	1.2	259	1.1	44	2.0
傷害	1,429	5.6	1,389	6.0	40	1.8
危険運転致死傷	51	0.2	49	0.2	2	0.1
自動車運転過失致死傷	409	1.6	385	1.7	24	1.1
窃盗	8,668	34.0	7,792	33.5	876	39.4
強盗	797	3.1	768	3.3	29	1.3
詐欺	1,865	7.3	1,750	7.5	115	5.2
恐喝	326	1.3	318	1.4	8	0.4
横領・背任	376	1.5	343	1.5	33	1.5
暴力行為等処罰に関する法律	214	0.8	212	0.9	2	0.1
その他	1,057	4.1	1,029	4.4	28	1.3
特別法犯	8,985	35.2	8,005	34.4	980	44.0
銃砲刀剣類所持等取締法	147	0.6	144	0.6	3	0.1
売春防止法	32	0.1	20	0.1	12	0.5
麻薬及び向精神薬取締法	59	0.2	56	0.2	3	0.1
覚せい剤取締法	6,570	25.8	5,687	24.4	883	39.7
道路交通法	1,270	5.0	1,227	5.3	43	1.9
出入国管理及び難民認定法	48	0.2	37	0.2	11	0.5
その他	859	3.4	834	3.6	25	1.1

(注) 1 「強制わいせつ・強姦」にはそれぞれの致死傷を、「傷害」には傷害致死及び暴行を、「自動車運転過失致死傷」には業務上過失致死傷及び重過失致死傷を、「強盗」には強盗致死傷及び強盗強姦・同致死を含む。

2 18表(「11-00-18」)参照

さらに、男女別に上位 5 位までの罪名で見ると、男は、窃盗、覚せい剤取締法違反、詐欺、傷害、道路交通法違反の順で、女は、覚せい剤取締法違反、窃盗、詐欺、殺人、道路交通法違反の順となっており、平成 22 年と同じ順となっている。女の場合、覚せい剤取締法違反及び窃盗の構成比がそれぞれ 40% 近くを占めているとともに、上位に殺人が挙げられている点が大きな特徴である。

なお、最近 10 年間の新受刑者のうち、覚せい剤取締法違反の人員の推移は、第 12 表のとおりであり、平成 23 年の人員総数は平成 22 年と同数であるが、構成比は 25.8% であり、前年より 1.5% 上昇している。

第 12 表 新受刑者のうち覚せい剤取締法違反の人員の推移

区分	平成 14 年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
人員										
総数	7,062	6,774	6,165	6,960	6,802	6,125	6,233	6,086	6,569	6,570
男	6,349	6,065	5,456	6,193	6,018	5,385	5,460	5,297	5,708	5,687
女	713	709	709	767	784	740	773	789	861	883
構成比										
総数	23.3	21.6	19.2	21.2	20.6	20.1	21.5	21.5	24.3	25.8
男	22.2	20.6	18.1	20.2	19.6	19.0	20.4	20.3	22.9	24.4
女	41.8	38.0	35.4	35.2	33.6	34.0	35.2	36.4	39.0	39.7

(注) 18 表 (「11-00-18」) 参照

#### (4) 新受刑者の刑名・刑期

平成 23 年における新受刑者の刑名別人員は、第 13 表のとおりである。

第 13 表 新受刑者の刑名別人員

区分	総数	懲役	禁錮	拘留	死刑
人員	25,499	25,374	121	4	-
(構成比)	(100.0)	(99.5)	(0.5)	(0.0)	(-)

(注) 19 表 (「11-00-19」) 参照

このうち、懲役及び禁錮受刑者の刑期別人員は、第 14 表のとおりである。懲役受刑者の刑期別人員は、2 年以下が 9,687 人 (38.2%) と最も多く、次いで、3 年以下が 5,753 人 (22.7%)、1 年以下が 5,473 人 (21.6%) となっている。禁錮受刑者については、2 年以下が 54 人 (44.6%) と最も多い。

第 14 表 新受刑者のうち懲役及び禁錮受刑者の刑期別人員

区分	総数	1 年以下	2 年以下	3 年以下	5 年以下	5 年を超える	無期
懲役人員	25,374	5,473	9,687	5,753	2,917	1,501	43
(構成比)	(100.0)	(21.6)	(38.2)	(22.7)	(11.5)	(5.9)	(0.2)
禁錮人員	121	27	54	34	4	2	-
(構成比)	(100.0)	(22.3)	(44.6)	(28.1)	(3.3)	(1.7)	(-)

(注) 19 表 (「11-00-19」) 参照

(5) 新受刑者の入所度数

平成 23 年における新受刑者の入所度数別人員は、第 15 表のとおりである。

第 15 表 新受刑者の入所度数別人員

区 分	総数	初度	2 度	3 度	4 度	5 度	6 度以上
人 員	25,499	10,865	4,571	3,034	1,922	1,357	3,750
(構成比)	100.0	42.6	17.9	11.9	7.5	5.3	14.7
対前年比	-5.8	-8.5	-7.7	-2.8	-0.2	-3.6	-1.3

(注) 23 表 (「11-00-23」) 参照

次に、最近 10 年間の新受刑者のうち、初入者及び再入者人員の推移は、第 16 表のとおりである。初入者は、平成 5 年以降増加傾向を示していたが、同 17 年から減少し始めた。また、平成 18 年から 6 年連続して再入者が初入者を上回っている。

第 16 表 新受刑者のうち初入者・再入者人員の推移

区分	平成 14 年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
総数	30,277	31,355	32,090	32,789	33,032	30,450	28,963	28,293	27,079	25,499
初入者	15,402	16,261	16,591	16,573	16,504	14,863	13,347	12,775	11,874	10,865
(構成比)	(50.9)	(51.9)	(51.7)	(50.5)	(50.0)	(48.8)	(46.1)	(45.2)	(43.8)	(42.6)
再入者	14,875	15,094	15,499	16,216	16,528	15,587	15,616	15,518	15,205	14,634
(構成比)	(49.1)	(48.1)	(48.3)	(49.5)	(50.0)	(51.2)	(53.9)	(54.8)	(56.2)	(57.4)

(注) 23 表 (「11-00-23」) 参照

(6) 新受刑者のうち初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴

平成 23 年の新受刑者のうち、初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴別人員は、第 17 表のとおりである。保護処分歴を有する者は 1,518 人(14.0%)、刑の執行猶予歴を有する者は 7,222 人(66.5%)となっている。

第 17 表 初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴別人員

区 分	総 数	保 護 処 分 歴					刑の執行猶予歴	
		あ り	少年院送致	児童自立支援施設・児童養護施設送致	保護観察	なし	あ り	なし
人 員	10,865	1,518	868	17	633	9,347	7,222	3,643
(構成比)	(100.0)	(14.0)	(8.0)	(0.2)	(5.8)	(86.0)	(66.5)	(33.5)

(注) 30 表 (「11-00-30」) 参照

(7) 新受刑者のうち暴力団加入者人員

最近 10 年間の新受刑者のうち、暴力団加入者人員の推移は、第 18 表のとおりである。平成 23 年は前年に比べ 233 人減少した 2,359 人となっており、新受刑者に占める構成比も 0.3%低下した 9.3%となっている。

第 18 表 新受刑者のうち暴力団加入者人員の推移

区 分	平成 14 年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
総 数	30,277	31,355	32,090	32,789	33,032	30,450	28,963	28,293	27,079	25,499
人 員	3,628	4,309	4,244	4,612	4,143	3,665	3,265	2,960	2,592	2,359
(構成比)	(12.0)	(13.7)	(13.2)	(14.1)	(12.5)	(12.0)	(11.3)	(10.5)	(9.6)	(9.3)

(注) 46 表 (「11-00-46」) 参照

### 3 再入受刑者

#### (1) 再入受刑者の再犯期間

最近10年間の再入受刑者（前刑出所前の犯罪により再入所した者を除く。）の再犯期間（前回の刑の執行を受けて出所した日から再入に係る罪を犯した日までの期間）別人員の推移は、第19表のとおりである。平成23年は1年未満が5,719人（39.5%）と最も多く、次いで、2年未満が3,076人（21.3%）、3年未満が1,871人（12.9%）の順となっている。

第19表 再入受刑者の再犯期間別人員の推移

区分	総数	再犯期間											
		1年未満		2年未満		3年未満		4年未満		5年未満		5年以上	
		人員（構成比）	うち、3月未満 人員（構成比）	人員（構成比）	人員（構成比）	人員（構成比）	人員（構成比）	人員（構成比）	人員（構成比）	人員（構成比）	人員（構成比）		
平成14年	14,702	5,917 (40.2)	1,870 (12.7)	2,817 (19.2)	1,637 (11.1)	979 (6.7)	677 (4.6)	2,675 (18.2)					
15	14,847	5,912 (39.8)	1,860 (12.5)	3,021 (20.3)	1,637 (11.0)	968 (6.5)	685 (4.6)	2,624 (17.7)					
16	15,258	6,076 (39.8)	1,800 (11.8)	3,194 (20.9)	1,698 (11.1)	1,016 (6.7)	676 (4.4)	2,598 (17.0)					
17	15,997	6,425 (40.2)	2,062 (12.9)	3,306 (20.7)	1,881 (11.8)	1,111 (6.9)	749 (4.7)	2,525 (15.8)					
18	16,361	6,588 (40.3)	1,953 (11.9)	3,327 (20.3)	2,015 (12.3)	1,156 (7.1)	767 (4.7)	2,508 (15.3)					
19	15,402	6,389 (41.5)	1,982 (12.9)	3,244 (21.1)	1,802 (11.7)	1,049 (6.8)	740 (4.8)	2,178 (14.1)					
20	15,443	6,313 (40.9)	1,943 (12.6)	3,245 (21.0)	1,864 (12.1)	1,117 (7.2)	764 (4.9)	2,140 (13.9)					
21	15,355	6,289 (41.0)	1,951 (12.7)	3,293 (21.4)	1,820 (11.9)	1,084 (7.1)	779 (5.1)	2,090 (13.6)					
22	15,034	5,877 (39.1)	1,813 (12.1)	3,265 (21.7)	1,900 (12.6)	1,123 (7.5)	786 (5.2)	2,083 (13.9)					
23	14,464	5,719 (39.5)	1,722 (11.9)	3,076 (21.3)	1,871 (12.9)	1,124 (7.8)	735 (5.1)	1,939 (13.4)					

(注) 54表（「11-00-54」）参照

#### (2) 再入状況

平成18年の出所受刑者30,584人（国際受刑者移送法により送出国に移送した者を除く。）について、同23年末までの再入状況は、第20表のとおりである。平成23年までの6年以内に再入所した者は、計13,305人（43.5%）となっている。また、満期釈放と仮釈放の別に6年以内再入者を比較すると、満期釈放は8,075人（55.7%）、仮釈放は5,230人（32.5%）となっている。

第20表 平成18年出所受刑者の平成23年末までの再入状況

出所事由	平成18年出所受刑者	再入年別人員及び構成比							計
		平成18年 人員（構成比）	19 人員（構成比）	20 人員（構成比）	21 人員（構成比）	22 人員（構成比）	23 人員（構成比）	人員（構成比）	
総数	30,584	1,768 (5.8)	4,612 (15.1)	3,146 (10.3)	1,837 (6.0)	1,195 (3.9)	747 (2.4)	13,305 (43.5)	
満期釈放	14,503	1,502 (10.4)	3,034 (20.9)	1,672 (11.5)	955 (6.6)	578 (4.0)	334 (2.3)	8,075 (55.7)	
仮釈放	16,081	266 (1.7)	1,578 (9.8)	1,474 (9.2)	882 (5.5)	617 (3.8)	413 (2.6)	5,230 (32.5)	

(注) 63表（「11-00-63」）及び64表（「11-00-64」）参照

#### (3) 出所後6年以内に再入所した者の推移

出所後6年以内に再入所した者（出所受刑者のうち、国際受刑者移送法により送出国に移送した者を除く。）の推移は、第21表のとおりである。再入率については7年連続して低下している。

第21表 出所後6年以内に再入所した者の推移

区分	出所年									
	平成9年	10	11	12	13	14	15	16	17	18
出所受刑者	21,989	22,240	23,125	23,715	25,714	27,308	28,170	29,526	30,025	30,584
（うち、再入人員）	(10,606)	(10,812)	(11,545)	(11,602)	(12,188)	(12,594)	(12,751)	(13,143)	(13,266)	(13,305)
再入率	48.2	48.6	49.9	48.9	47.4	46.1	45.3	44.5	44.2	43.5

(注) 63表（「11-00-63」）及び64表（「11-00-64」）参照

#### 4 出所受刑者

##### (1) 出所受刑者の人員及び出所事由

最近 10 年間の出所受刑者の出所事由別人員の推移は、第 22 表のとおりである。平成 23 年における出所受刑者人員の総数は 28,583 人であり、前年に比べ 878 人 (3.0%) 減少している。これを男女別に見ると、男が 26,308 人 (92.0%)、女が 2,275 人 (8.0%) となっている。さらに、出所事由別に見ると、満期釈放が 13,938 人 (48.8%)、仮釈放が 14,620 人 (51.1%)、国際受刑者移送法による送出受刑者が 25 人 (0.1%) となっている。

第 22 表 出所受刑者の出所事由別人員の推移

区 分	平成 14 年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
人 員										
総 数	27,308	28,170	29,533	30,037	30,600	31,341	31,680	30,213	29,461	28,583
男	25,830	26,594	27,782	28,207	28,598	29,187	29,431	28,029	27,294	26,308
女	1,478	1,576	1,751	1,830	2,002	2,154	2,249	2,184	2,167	2,275
指 数										
総 数	100	103	108	110	112	115	116	111	108	105
男	100	103	108	109	111	113	114	109	106	102
女	100	107	118	124	135	146	152	148	147	154
出所事由別										
満期釈放 (構成比)	11,990 (43.9)	12,386 (44.0)	12,836 (43.5)	13,605 (45.3)	14,503 (47.4)	15,465 (49.3)	15,792 (49.8)	15,324 (50.7)	14,975 (50.8)	13,938 (48.8)
仮釈放 (構成比)	15,318 (56.1)	15,784 (56.0)	16,690 (56.5)	16,420 (54.7)	16,081 (52.6)	15,832 (50.5)	15,840 (50.0)	14,854 (49.2)	14,471 (49.1)	14,620 (51.1)
送出移送 (構成比)	… …	… …	7 (0.0)	12 (0.0)	16 (0.1)	44 (0.1)	48 (0.2)	35 (0.1)	15 (0.1)	25 (0.1)

(注) 67 表 (「11-00-67」) 参照

##### (2) 出所受刑者のうち仮釈放者の刑の執行状況

###### ア 有期懲役受刑者

平成 23 年における有期懲役受刑者のうち仮釈放者 14,334 人(仮釈放が取り消されて刑の執行を受け、さらに仮釈放を許された者を除く。)についての刑の執行率は、第 23 表のとおりである。刑の執行率 80～89%が 6,713 人 (46.8%) と最も多く、次いで、90%以上が 4,226 人 (29.5%) となっている。

第 23 表 有期懲役受刑者のうち仮釈放者の刑の執行率

区 分	総 数	刑 の 執 行 率				
		59%以下	60～69%	70～79%	80～89%	90%以上
人 員	14,334	15	226	3,154	6,713	4,226
(構成比)	(100.0)	(0.1)	(1.6)	(22.0)	(46.8)	(29.5)
対 前 年 比	1.0	150.0	-18.4	-6.3	4.2	3.1

(注) 70 表 (「11-00-70」) 参照

有期懲役受刑者の仮釈放者のうち、刑の執行率 80%以上の者についての刑期別人員は、第 24 表のとおりである。総数では 10,939 人 (76.3%)、刑期 1 年以下では 871 人 (84.2%)、2 年以下では 3,716 人 (70.0%)、3 年以下では 3,096 人 (74.6%) となり、平成 22 年の総数 10,538 人 (74.3%) と比べて執行率が上がっている。

第 24 表 有期懲役受刑者の仮釈放者のうち刑の執行率 80%以上の刑期別人員

区 分	総 数	刑 期				
		1 年以下	2 年以下	3 年以下	5 年以下	5 年を超える
有期懲役仮釈放者 うち、刑の執行率 80%以上の人員	14,334	1,034	5,306	4,152	2,786	1,056
	10,939	871	3,716	3,096	2,269	987
有期懲役仮釈放者 に占める比率	76.3	84.2	70.0	74.6	81.4	93.5

(注) 70 表 (「11-00-70」) 参照



## イ 無期懲役受刑者

平成 23 年における無期懲役受刑者のうち仮釈放者（無期刑の仮釈放が取り消され、服役後再び仮釈放となった者 5 人を除く。）3 人について、その受刑在所期間は、第 25 表のとおりである。仮釈放者の平均受刑在所期間は約 422 月（35 年 2 月）である。

第 25 表 無期懲役受刑者のうち仮釈放者の受刑在所期間

区 分	総 数	14 年以下	15 年以下	16 年以下	17 年以下	18 年以下	19 年以下	20 年以下	20 年を超える
総 数	3	-	-	-	-	-	-	-	3
(構成比)	(100.0)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(100.0)

(注) 69 表（「11-00-69」）参照

### (3) 出所受刑者の刑務作業及び職業訓練など

平成 23 年における出所受刑者について、その在所時の刑務作業の業種別就業人員は、第 26 表のとおりである。業種別に見ると、経理作業（刑務所などの自主運営に必要な作業で、炊事、清掃及び看護などの作業）が 5,550 人（19.4%）と最も多く、次いで、織物製品製造が 3,522 人（12.3%）、紙・紙製品製造が 3,042 人（10.6%）、化学製品製造が 3,020 人（10.6%）の順となっている。

第 26 表 出所受刑者の刑務作業の業種別就業人員

業 種	人 員	構成比	人員の対前年比
総 数	28,583	100.0	-3.0
経 理 作 業	5,550	19.4	-1.9
織 物 製 品 製 造	3,522	12.3	-0.1
紙 ・ 紙 製 品 製 造	3,042	10.6	-6.9
化 学 製 品 製 造	3,020	10.6	2.6
紙 細 工	2,747	9.6	1.7
金 属 加 工 ・ 機 械 組 立 修 理	2,352	8.2	-9.7
木 工	974	3.4	-8.9
ゴ ム ・ 可 塑 物 製 品 製 造	648	2.3	0.6
電 気 器 具 組 立 修 理	557	1.9	-9.1
金 属 材 料 製 造	471	1.6	-12.3
印 刷 ・ 製 本	470	1.6	0.4
そ の 他 の 技 能 工	446	1.6	24.6
皮 革 ・ 皮 革 製 品 製 造	411	1.4	16.4
農 耕 ・ 牧 畜	214	0.7	-19.5
サ ー ビ ス 工	197	0.7	-10.9
飲 食 料 品 製 造	146	0.5	12.3
単 純 労 働 作 業	93	0.3	-17.0
窯 業 ・ 土 石 製 品 製 造	76	0.3	-25.5
そ の 他	3,628	12.7	-6.0
不 就 業	19	0.1	-29.6

(注) 71 表（「11-00-71」）参照

平成23年における出所受刑者の職業訓練種目別人員は、第27表のとおりである。総数2,616人(出所受刑者総数の9.2%)のうち、職業訓練修了者の受講種目の主な内訳を見ると、溶接及びビル設備管理がともに187人(7.1%)と最も多く、次いで、フォークリフト運転が165人(6.3%)、情報処理が156人(6.0%)、建設機械が112人(4.3%)、ホームヘルパーが92人(3.5%)の順となっている。

第27表 出所受刑者の職業訓練種目別人員

業種	人員	構成比
総数	2,616	100.0
溶接	187	7.1
ビル設備管理	187	7.1
フォークリフト運転	165	6.3
情報処理	156	6.0
建設機械	112	4.3
ホームヘルパー	92	3.5
販売サービス	80	3.1
ビルハウスクリーニング	75	2.9
小型建設機械	65	2.5
CAD技術	63	2.4
電気通信設備	47	1.8
自動車整備	46	1.8
農業園芸	46	1.8
工芸(革工芸)	45	1.7
工芸(木材工芸)	39	1.5
クリーニング	38	1.5
その他	1,036	39.6
未修了者	137	5.2

(注) 72表(「11-00-72」参照)

平成23年における出所受刑者が取得した資格・免許の種類別人員は、第28表のとおりである。総数1,857人(出所受刑者総数の6.5%)の資格・免許の主な内訳を見ると、フォークリフト運転者が170人(9.2%)と最も多く、次いで、溶接技能者が168人(9.0%)、危険物取扱者が141人(7.6%)、車両系建設機械運転技能者が138人(7.4%)、ボイラー技士が132人(7.1%)、パソコン検定が92人(5.0%)の順となっている。

第28表 出所受刑者が取得した資格・免許の種類別人員

種類	人員	構成比
総数	1,857	100.0
フォークリフト運転者	170	9.2
溶接技能者	168	9.0
危険物取扱者	141	7.6
車両系建設機械運転技術者	138	7.4
ボイラー技士	132	7.1
パソコン検定	92	5.0
ホームヘルパー	86	4.6
技能検定・技能照査	66	3.6
CAD利用技術者	59	3.2
情報処理技術者	58	3.1
ワープロ検定	39	2.1
技能講習	36	1.9
電気工事士	33	1.8
クリーニング師	31	1.7
自動車整備士	25	1.3
理容師	21	1.1
その他	562	30.3

(注) 73表(「11-00-73」)参照

#### (4) 出所受刑者の帰住先

平成23年における出所受刑者（満期釈放者及び仮釈放者）の出所事由別の帰住先は、第29表のとおりである。総数で見ると、親族のものが14,422人（50.5%）と最も多く、次いで、更生保護施設等が4,312人（15.1%）、知人のものが2,012人（7.0%）の順となっている。出所事由別で見ると、満期釈放では、親族のものが5,270人（37.8%）と最も多く、次いで、知人のものが1,142人（8.2%）、更生保護施設等が577人（4.1%）となっている。仮釈放では、親族のものが9,152人（62.6%）、次いで、更生保護施設等が3,735人（25.5%）、知人のものが870人（6.0%）の順となっている。

第29表 出所受刑者の出所事由別の帰住先

帰住先	総数		満期釈放		仮釈放	
	人員	(構成比)	人員	(構成比)	人員	(構成比)
総数	28,558	100.0	13,938	100.0	14,620	100.0
親族のものと	14,422	50.5	5,270	37.8	9,152	62.6
父, 母のものと	8,815	30.9	2,984	21.4	5,831	39.9
配偶者のものと	2,886	10.1	1,078	7.7	1,808	12.4
兄弟, 姉妹のものと	1,664	5.8	761	5.5	903	6.2
その他の親族のものと	1,057	3.7	447	3.2	610	4.2
知人のものと	2,012	7.0	1,142	8.2	870	6.0
雇主のものと	271	0.9	121	0.9	150	1.0
社会福祉施設	232	0.8	211	1.5	21	0.1
更生保護施設等	4,312	15.1	577	4.1	3,735	25.5
その他	7,309	25.6	6,617	47.5	692	4.7

(注) 83表（「11-00-83」）参照

#### (5) 出所受刑者の懲罰回数

平成23年における出所受刑者の初入・再入別懲罰回数は、第30表のとおりである。在所時に懲罰を受けた者は15,281人（出所受刑者総数の53.5%）となっている。初入・再入別で見ると、初入で懲罰を受けた者は6,131人（出所受刑者のうち初入者総数の47.8%）であり、再入で懲罰を受けた者は9,150人（出所受刑者のうち再入者総数の58.1%）となっている。

第30表 出所受刑者の初入・再入別懲罰回数

区分	総数	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	なし
総数	28,583	5,568	2,874	1,608	1,094	799	3,338	13,302
(構成比)	(100)	(19.5)	(10.1)	(5.6)	(3.8)	(2.8)	(11.7)	(46.5)
初入	12,830	2,516	1,196	658	405	266	1,090	6,699
(構成比)	(100)	(19.6)	(9.3)	(5.1)	(3.2)	(2.1)	(8.5)	(52.2)
再入	15,753	3,052	1,678	950	689	533	2,248	6,603
(構成比)	(100)	(19.4)	(10.7)	(6.0)	(4.4)	(3.4)	(14.3)	(41.9)

(注) 78表（「11-00-78」）参照

## 5 休養患者 — 被収容者のり病状況

平成23年における休養患者（医師の診断を受けた者のうち、医療上の必要により病室又はこれに代わる室に収容されて治療を受けた者）の人員は、既決拘禁者（受刑者、死刑確定者及び労役場留置者）が15,013人（男13,902人、女1,111人）、未決拘禁者（被告人、被疑者など）が765人（男696人、女69人）である。

このうち、既決拘禁者についての主要病名別転帰事由別人員は、第31表のとおりである。病名別で見ると、呼吸器系の疾患が5,160人（34.4%）と最も多く、次いで、筋骨格系・結合組織の疾患が2,078人（13.8%）、消化器系の疾患が1,738人（11.6%）の順となっている。また、総数を転帰事由別に見ると、治癒又は軽快が13,493人（89.9%）、後遺が501人（3.3%）の順となっている。

なお、休養患者の平均日数は、既決拘禁者が50日、未決拘禁者が223日となっている。

第31表 休養患者の主要病名別転帰事由別人員（既決拘禁者）

病名	総数	構成比	総数	転 帰 事 由				
				治癒又は軽快	死亡	未治出所	後遺	その他
総数	15,013	100.0	15,013	13,493	265	361	501	393
			(100.0)	(89.9)	(1.8)	(2.4)	(3.3)	(2.6)
感染症・寄生虫症	428	2.9	428	297	2	20	33	76
			(100.0)	(69.4)	(0.5)	(4.7)	(7.7)	(17.8)
新生物	595	4.0	595	296	105	48	55	91
			(100.0)	(49.7)	(17.6)	(8.1)	(9.2)	(15.3)
内分泌、栄養・代謝疾患	251	1.7	251	211	6	9	11	14
			(100.0)	(84.1)	(2.4)	(3.6)	(4.4)	(5.6)
精神・行動の障害	917	6.1	917	605	12	77	185	38
			(100.0)	(66.0)	(1.3)	(8.4)	(20.2)	(4.1)
神経系の疾患	293	2.0	293	246	1	17	20	9
			(100.0)	(84.0)	(0.3)	(5.8)	(6.8)	(3.1)
循環器系の疾患	759	5.1	759	565	68	41	45	40
			(100.0)	(74.4)	(9.0)	(5.4)	(5.9)	(5.3)
呼吸器系の疾患	5,160	34.4	5,160	5,077	23	27	19	14
			(100.0)	(98.4)	(0.4)	(0.5)	(0.4)	(0.3)
消化器系の疾患	1,738	11.6	1,738	1,588	13	45	28	64
			(100.0)	(91.4)	(0.7)	(2.6)	(1.6)	(3.7)
皮膚・皮下組織の疾患	636	4.2	636	613	-	4	12	7
			(100.0)	(96.4)	(-)	(0.6)	(1.9)	(1.1)
筋骨格系・結合組織の疾患	2,078	13.8	2,078	2,023	-	19	27	9
			(100.0)	(97.4)	(-)	(0.9)	(1.3)	(0.4)
腎尿路生殖器系の疾患	330	2.2	330	248	10	28	33	11
			(100.0)	(75.2)	(3.0)	(8.5)	(10.0)	(3.3)
損傷・中毒	357	2.4	357	328	7	6	7	9
			(100.0)	(91.9)	(2.0)	(1.7)	(2.0)	(2.5)
その他	1,471	9.8	1,471	1,396	18	20	26	11
			(100.0)	(94.9)	(1.2)	(1.4)	(1.8)	(0.7)

- (注) 1 既決拘禁者について調査したものである。  
 2 「未治出所」とは、治癒に至らないうちに満期、仮釈放又は刑の執行停止により出所した者をいう。  
 3 「後遺」とは、12月31日現在において未治癒の者をいう。  
 4 「その他」とは、他の行刑施設に移送になった者等をいう。  
 5 ( )内の数字は、各病名に対する転帰事由別構成比である。  
 6 87表（「11-00-87」）及び88表（「11-00-88」）参照

## 婦人補導院

最近 10 年間の婦人補導院における新収容者人員及び出院者人員の推移は、第 1 表及び第 2 表のとおりである。新収容者は平成 17 年以来 6 年ぶりに 1 名入所した。出院者はいない。

第 1 表 新収容者人員の推移

区 分	平成 14 年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
人 員	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1

(注) II 婦人補導院の表（「11-00-01」）参照

第 2 表 出院者人員の推移

区 分	平成 14 年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
出院者	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
退 院	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
仮 退 院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) II 婦人補導院の表（「11-00-01」）参照